三保通信

18. 9. 1

〒424-0401
（株）三保製薬研究所内
静岡市清水区中河内一五一三
☎０５４-３９６-３３２１

花見氏、もう一人のわたしの巻
手足（ネシアみたい？）に、役割がある

花見久太郎に、足を意のままにすると言っても、何のことか分らないだろうと思っていたら、

「足を上に上げて、振るっていうんでしょ？」

そう、花見も少しは理解をしてきているようで、仰向けになって両手両足の四肢を上にあげて振るのだ。

〝意のまま〟だから、「人間を運営するもの」としての足を自分の自由に出来るようにするということだ。

要は、細い部分を上に上げて振ってやれば、毛細管現象が働いて、血流を促進させるということである。これによって手足だけでなく、人間全体を運営できる様にする。血液循環を良くするということはそれだけ効果がある。

「いっぽうの手とか、いっぽうの足だけでもいいのかなぁ？」

それでもいいし手足に限らず、腎臓であれば腎臓微振動、頭であれば頭部微振動で循環をうながすことになる。ただ特に細く長い部分の微振動ほど実行可能なのだ。

微振動は一時的な断食状態をつくることになる。だいぶ飛躍するが、日本列島も千島列島に始まって奄美・沖縄から台湾につながる島々を結んでみると、それは細く長い足とみることだってできる。

「胴体は中国大陸ってわけ？」

そうなのだ、大陸を胴体と見立てれば、ヤポネシア（日本列島の意）と繋がる列島・諸島は足ではないか。

想像が半端で無いわけで花見にして、

「まさか日本列島の血のめぐりを良くして大陸までそれを、なんて考えてるんじゃあないだろうねぇ？」

花見も毛管運動を分かって来てくれている。実は日本列島に「微振動」と「断食」が必要と考えているのだ。なにも身体にとってだけじゃあない、社会活動によって、環境上も予防を益々必要としているのだ。

さて、簡単に断食と云ってしまったがそれは簡単ではない。花見など、一番苦手とすることである。

「何がイヤかって、食べないことさ！」

そうだろう、花見だけじゃない、むしろ世の中これでもかというくらい食欲をあおってくれる。まずは排泄を良くして四肢の微振動を少しずつでも欠かさないことである。（H）

～思いのままに 信州から～

看護師　工藤美智子

”自分終い“

四月から五つの施設を持つ事業所で働かせていただくようになり、八月から、違うデイサービス施設に転勤になりました。毎日、まごまごしています。同じデイサービスですが前よりもちょっと大きな施設で、名称を「駒」と言います。

市役所支所の近くで、街の中心地にあります。中山道沿いで、歴史を感じさせる建物が近くにあります。雰囲気も大分違い、やっと少し、慣れて来たかなと思っています。

テーブルに座り、入浴したり運動したり、テレビ・カラオケ・手芸等一日を楽しんで過ごすお年寄り達を排泄の事も含め見守らせていただいています。

お盆の時期、新盆のお家に何軒か伺いました。親しかった方のご家族から、話を聴くにつけ、別れは、何時訪れるか分からない、と改めて思いましたし、始末しながら暮らさなければ、残された家族が大変だなぁとも。

遺影の向こうから、自分の名前を呼ばれているような気もして、手を合わせながら、胸がいっぱいになりました。自分仕舞いを心の隅に置きながら、暮らしていきたいと思います。

三保製薬にフリーダイヤルができました！商品のご注文やご相談などにぜひご活用ください。（固定電話専用です。）

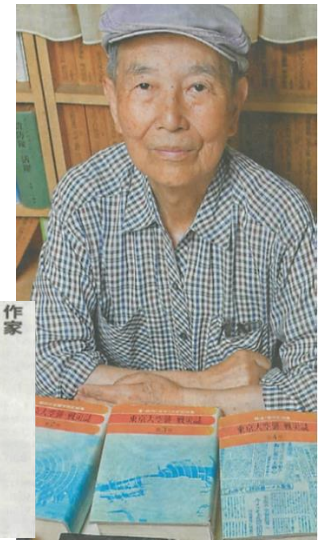
0120-07-3183（おなかに スイマグエース）

「マイナス腸活」の啓蒙活動

弊社は少しでも多くの人が、病気とは無縁な人生を送り、慣れ親しんだ環境で健康長寿を全うし、超高齢社会に於いても、社会保障制度が維持できる安心な社会の実現に貢献していきたいと思っております。
そのためには、何をおいても万病の元となる「腸内腐敗の無い、キレイな大腸の維持と改善」に取り組んで頂かなければならないと考え、新たに「マイナス腸活の情報紙」を発行させて頂きます。

紙面では、マイナス腸活に取り組んでおられる人の活動や、有用な情報などを紹介していく予定です。

初回号では、ベリーダンス・フィットネスの開発者、杉谷知香さんをご紹介します。（Ｉ）



作家 早乙女勝元さん

人間はマイナスをプラスにできる

早乙女さんは「東京大空襲」（岩波新書）の著者であり、自身の著作は百冊近くになるそうです。

早乙女さんは、西式健康法の西勝造著「原本西式健康読本」の解題も書かれています。解題とは解説のような意味で使われるのですが、本書中３ページから２０ページに渡って、「解題　わが家の健康づくりと西式」とだいして自身の健康生活を綴られながら、

「西医学の創始者西勝造氏が去ってから、私たちの国は高度経済成長の公害によって毒され、人間の人間らしく生きてある存在を危うくするようなさまざまな毒素が、巷にあふれてきた。こんにちを生きる私たちは、その健康を破壊するものとのたたかいなしに、生命を守り育てることが出来なくなってきた現実を真摯に直視すべきだろう。」

と語っています。

冒頭の表題（毎日新聞８月１２日）について、「鉢巻きは軍国主義の象徴ですが、人間はマイナスをプラスに転化できると思い、書き続けています。」と書かれていました。

〝マイナス〟はここでは、頭に横一の鉢巻きのことを言うのかと思うのですが、たくさんの友だちが亡くなって「俺たちがどういう目に遭ったのか伝えてほしい」と言われた気がして書き続けていると、語っておられました。

（H）

もうご覧頂けましたか？「マイナス腸活」動画は三保製薬公式サイトから！

URL　http://www.mihoseiyaku.co.jp　※「三保製薬（みほせいやく）」で検索！

連載便秘⑬

西式健康法創始者西勝造著『便秘』第七章結語からの転載によります。腸の粘膜も皮膚につながるもの、〝皮膚のお手入れ〟が改めて重要であることを教えられます。（H）

〝便秘の場合においては、吸収せられたる細菌の毒素によって自家中毒が起こるのであるが、また細菌自身が腸壁を通過して血液に侵入することもある。便秘に所因する疾患の場合においては、若干の症状が、病毒感染の症状を想起せしめるであろう。もしも特殊な研究を行なってみるならば、腸に起源せる細菌が、病児・妊婦または産婦の血液中に見出されることは、慥（たし）かであろう。かかる患者の具示すべき症状については、上述しておいた通りである。

〝細菌が腸壁を通過するか否かは細菌学上最も異論の多い問題である。この問題について論及せる著者は数多あるが、しかし、ほとんど一致点が見出されない。いわんや、細菌を豊富に含める腸管において、果たして、いかなることが起こるかを見きわめることは、とうてい不可能である。健全な状態にある腸壁は、病菌の通過を阻止するに違いないけれども、それら病菌の若干が器官および血液に侵入することは論を俟（ま）たない。種々なる動物、馬、犬、兎などについて行われた実験の結果によると、食物とともに摂取せられたる細菌の若干は、消化管壁を通過して近傍の淋巴腺、肺臓、脾臓および肝臓に侵入するが、その一方において若干の細菌は、時おり、血液および淋巴中に見出されることがある。腸壁が絶対的に健全でるときにおいても細菌が通過するか否か、あるいは多少とも傷害をこおむっている場合に限り、はじめて細菌の通過が行われるか否かは議論のあるところである。この問題を確定的に解決することは、はなはだしく難しい。しかし、これは、実際上の問題からすれば、ほとんど、いずれでも同じことであるのが、容易に知られよう。それというのも、腸壁は極めて容易に損傷せられるからである〟云々。

公式サイト New

『排泄は予防の元（はじめ）』
『往時雑感』『土と腸 ― 三保製薬研究所物語』
の連載がスタートしました！

皆様にご愛読いただいております『三保通信』を創刊号からじっくり読み解く新企画です。
三保製薬研究所公式サイト「三保通信」からご覧ください。

公式オンラインストア

【クレジットカード払い】に加え、
【コンビニ後払い】によるお支払いが可能になりました。

巻頭について、読み解きのために

手足を島々（ギリシャ語ではネシア、単語の後ろにつく）と見たててしまうというのは、想像が半端でないわけですが、小説家・島尾敏雄と云う人の「ヤポネシア概念」からもらった、実に希望の想像なのです。

「日本」の国を大陸から伝わった文化が主流という従来の硬直した見方ではなく、太平洋の側から見て千島列島から琉球諸島に至る島々の連なりとしてとらえ、様々の方角との交流に目を向ける見方。」（島尾敏雄編著『ヤポネシア序説』）

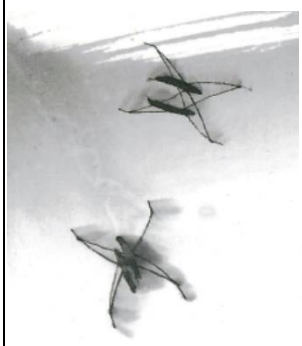
とすれば、「島々」は立派な手足で大陸は胴体と想像できるのです。

島尾敏夫は、第二次大戦中、アメリカ軍の南方侵攻路にあたっていた奄美諸島、加計呂麻島に、特攻隊長として赴任しました。島尾隊長は、部下たちに丁重で、外出のときは気軽に老婆の荷を背負ってやったり、尾根筋で子供たちと歌いながら山道を下りてゆくといった案配で、部下たちも村人に粗暴な振舞いをするようなことはなかったので、村人たちは島尾隊長を、あたかも到来の守護神のように「ワーキャジュウ（我々の慈父）と呼んだ。（島尾ミホ著『海辺の生と死』　巻末収録「聖と俗―焼くや藻塩の」吉本隆明）

もう一つ、「島尾敏雄」の言葉を借ります。

島々を結んだ線は、こころよいたるみをもって張られて縄のように、浅いカーブをこしらえながら、台湾島の方に手を差し伸べています」（島尾「鹿児島県立図書館奄美分館が設置されて」）

（六面上段へ）



暑中お見舞い申し上げます。
厳しい暑さが続き、夜間も熱帯夜に辟易しておりますが、おかげさまで何とかやっております…。
いつも「三保通信」をありがとうございます。
感謝のなかで、好読致しながら、更なる気づきの広より、想いの二筆おりを噛み締めさせて頂いております。
「三保」の今谷中は…悩ましく切くのであるが…」も、大きな的得ましたが、「寒暖差」の「自由」と「責任」の言葉に、以前ラジオで聴いた甲田先生と金光紀P氏との対談「東洋の思想・もう一つの健康観」の中で甲田氏い語っておられました。
「自由とは何か…考えれば分かる。それは場の幸せを求めている！
この世を知れ！…「十分すぎる」「正食」が命を生かす基本と成（そこに）本当の自由が生まれるんだ…」

A．A暑中見舞

やっぱ…自分の生活を整えて、健やかな いのち…真の自由、しあわせを生ぶし、人間の"生"へ真理へと導かれた甲田先生の偉業を、新たに感謝と感動の中で体感しております…　すべての恵みを授けて頂いております「三保通信」に感謝…
ありがとうございます。　ご健康下さいましてご活躍されますことを祈念申し上げます。

暑中見舞いのご紹介

いつも「三保通信」のお届けありがとうございます。暑中お見舞を申し上げたい所ですがこうも強烈な暑さ続きですと、本当に気を付けなければならないことのようです。大阪での地震そしてこの度の中国四国地方での いわば「山津波と川津波」本当に当事者の方々は大変な思い（ストレス）をされていること、思います。
避難用あに、スイマグなどの体の詰まりを起こしにくいものも用意することが大切と思います。
過剰ストレス→おなかの動き停止→詰まり
これがこわい酸性物質となり全身症状を悪化させるという（腐敗物）要循環ですね。
気持ちの良いお通じはリラックス神経の活動があってこそのことですから…
毎日毎日その件は加食と共にナーバスになる位注意を払っていますが、この時期水分不足もあってか少々スムーズ化に欠けるきらいはあります。

H．I暑中見舞

（五面中段より）

と、物や人のように感覚的に捉えようともしていた（喜山荘一）。

「手を差し伸べて」いる、ネシア島国の私たち、これが役割でなくてなんでしょう？

西勝造先生は、「病は足から」とも言っていました。二本足で立つだけに、胴体・頭と乗せる足には大変な負担がかかるわけです。確かに頭が一番上になって高等動物になったわけですが、一方で「頭デッカチ」で、悩み・争いは尽きない人類の歴史です。↘

↙人は時には、人の手足になって、いや神さまの手足になる、くらいの覚悟なら間違いもないのではないか、それで日本島はじめ島諸島のこのしなやかな「四肢」が、その役目を果たしたら、大陸までその血液循環が良くなるだろうと、これはもう祈りなのです。

（H）

小山内めぐみさんの通信欄だより

小山内さんが、ご注文のおりに郵便振替用紙通信欄にお書き添え下さるお便りです。お許し頂いて、転載させて戴いております。

（H）

▼２０１８年６月１９日　所詮、生死に関し人間は無力だけど、スイマグ飲めば腸が健やかであることだけは確かだと思うこの頃。

▼８月６日　腸の健康もビタミンＣ補給も言わないテレビの熱中症予防、スイマグと柿茶が飲める幸せを思うこの頃。

編集より

皆さんはどんなことで「空腹の良さ」を実感されるでしょうか。私にとってそれは、「次のご飯の美味しさ」につきます。まだまだ「精神の浄化」には行き着きませんが…。

Y